

## 新たな環境マネジメントシステムについて

## 1 新たな環境マネジメントシステム導入の背景

## (1) 環境マネジメントシステムの効果

自治体向けに開発された環境自治体スタンダード（LAS-E）のシステムを平成 22 年度から 5 年間の継続的な運用をしたことで、

①ごみの分別、節電などのエコオフィス活動については、強い意識付けと取組の定着が図られた。

②目標設定と監査に市民の方に参画いただく LAS-E の規格で運用することで、環境行動を継続して改善していくための基本的な体制も整備できた。

## (2) 環境マネジメントシステムの課題

環境マネジメントシステムの 5 年間の継続的な取組で出てきた課題として、各課の普段の取組は、紙、ごみ、電気の削減というエコオフィスの活動が中心になってしまう。また、これまで個別に管理していた指標や施策を一体的に管理していく必要性が求められてきた。

## (3) 独自システムの運用へ

環境に関する複数の計画（生駒市エネルギービジョンや生駒市環境モデル都市アクションプラン等）が存在するなか、特に「生駒市環境モデル都市アクションプラン」を主軸とした環境施策全般・環境関連計画の一体的な管理と、各部署で当然に環境への配慮が行われる水準にステップアップすることを主眼に置き、これまで運用してきた LAS-E 規格ではなく、独自のシステムにより運用を実施することと決定しました。

## 2 新たな環境マネジメントシステム

## ○計画（PLAN）

帳票 2・帳票 3 を使って、各所属において、取組目標の設定

## ○実施（DO）

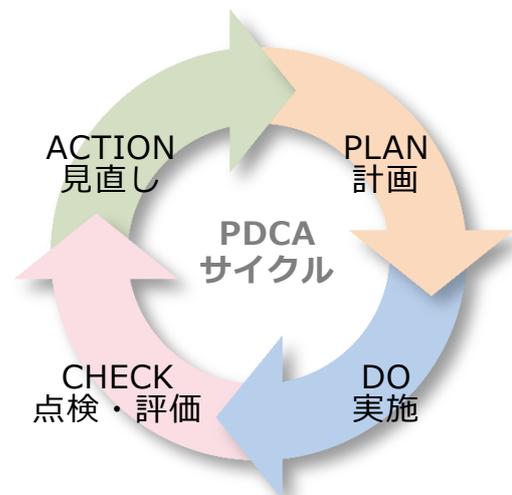
環境マネジメントシステムの運用

## ○点検・評価（CHECK）

市民監査の実施（環境マネジメントシステム推進会議）  
書面監査＋所属へのヒアリング

## ○見直し（ACTION）

各所属へフィードバック（ヒアリング対象所属には評価とコメント、対象外所属にはコメントを返す）。次年度運用方針の決定



### 3 従来のシステムとの違い（主な変更点）

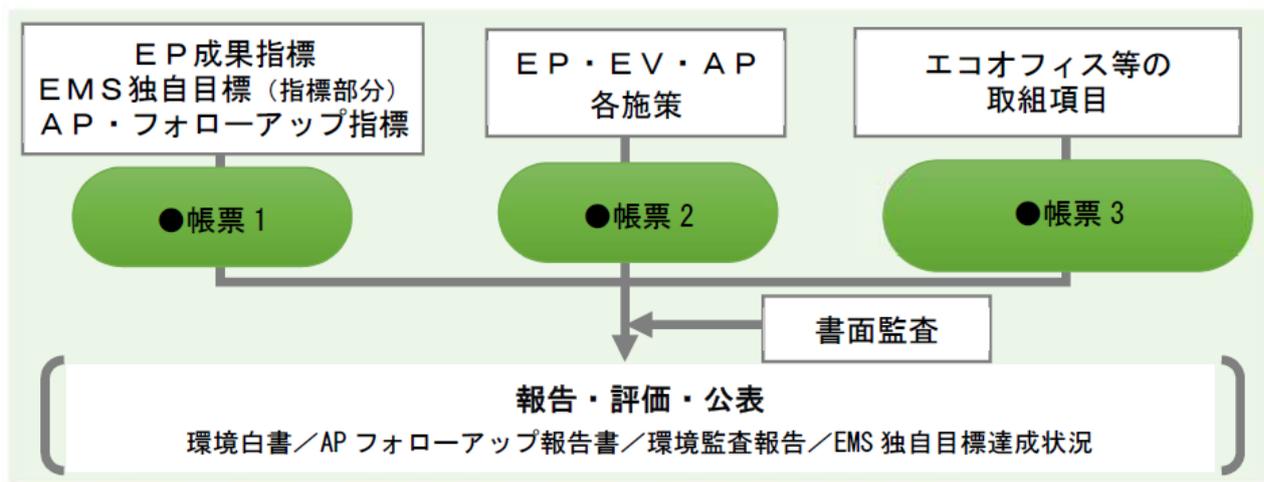
環境施策全般・環境関連計画の一体的な管理・点検評価を実施し、特に環境行動の状況を把握する必要があると考える所属を抽出し、重点的なヒアリングを実施します。

従来システム（LAS-E）との変更点（変更点は下線部分）

	従来システム	新システム
規格	環境自治体スタンダード(LAS-E)	独自システム ※認証機関による認証を受けない
対象施設	全所属・施設 (指定管理施設を含む)	全所属・施設 (指定管理施設を含む)
監査対象となる取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコオフィス</li> <li>・本来業務における環境配慮</li> <li>・環境基本計画(重点プロジェクトのみ)</li> <li>・その他独自施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコオフィス</li> <li>・本来業務における環境配慮</li> <li>・<u>環境関連計画に掲げる施策全般</u></li> <li>・その他独自施策</li> </ul>
監査方法	現場監査(全所属・施設の1/2程度)	<u>書面監査、所属へのヒアリング</u> (15所属程度)

### 4 点検・評価の方法

これまで個別に管理していた指標や施策を次の3つの帳票により、一体的に管理していくことになります。



注) EP: 環境基本計画、EV: エネルギービジョン、AP: アクションプラン

帳票管理イメージ

## 5 今後のスケジュール

6月	環境マネジメントシステム 推進会議（第1回）	推進会議委員の各班ごとにヒアリング先を選定
7月	環境マネジメントシステム 推進会議（第2回）	推進会議委員によるヒアリングと各所属に対するコメントの決定
8月以降	環境マネジメントシステム 推進会議専門チーム会議	指標（平成27年度実績の評価）の確認と次年度の目標値を設定
	監査結果のフィードバック	推進会議委員からいただいた意見を取りまとめたものを各担当課に返す。
	平成28年度環境マネジメントシステム運用方針の決定	平成27年度の監査結果を基に、平成28年度の運用方針を決定。